

翻訳にあたってのヒント

その 18

日付 (date) の書き方

このホームページの読者諸氏は、トップページにある日付にお気づきだろうか。

このホームページを立ち上げた日付を、私は「10 July 2006」と表記している。これは普通なら、「July 10, 2006」「10th July, 2006」あるいは「July 10th, 2006」と書くのだが、この表記方法だとコンマを入れたり序数詞表記にしたりするなど面倒である。このため、シンプルに表記できるので「略式」で書いたものである。

そこで今回は、日付の書き方を話題に取り上げ、その事例を示すことにした。ご参考いただければ幸いである。

事例として、「2000年8月1日」の書き方をご紹介します。

(英国式) 1st August, 2000、the first of August, 2000 (= 1/8/2000)、the 1st day of August, 2000

(米国式) August 1, 2000、August 1st, 2000 (= 8/1/2000)/ (公式) the first (1) day of August, 2000

[cf.] 日付の書き方 (補足) : 1900年8月1日

米国式 : 8/1/1900 → August 1, 1900 (or August 1st, 1900 [ただし、これについては、-st, -nd, -rd, -th を省いたほうがいとされている])

英国式 : 1/8/1900 → 1st August, 1900 (or the 1st [or first] of August, 1900 [いずれの場合でも、日が一番先に来る])

略式 : 1 August 1900 (コンマなし!)

この他にも、契約書や法律文書や公文書などでは、the first (1) day of August, 1900、the Fourth of July (アメリカの独立記念日) というように書かれている。見ての通り、英国式にすると、数字だけで表現した場合にどちらが日か月であるのかに関して混乱が生じたり、文字表記の場合に序数詞表記にするなど、面倒である。シンプルな米国式や略式が時間と手間の節約になるので便利だ。また、英国式と米国式をごちゃ混ぜにして数字だけで日付が書かれている英文 (特に非英語圏の方が書いた英文) によくお目にかかるが、どちらかに統一するか隣にカッコで囲って日付を文字で明記するなどしておけば、こういった文章で読み手に混乱が生じることはないだろうと思う。

また、日付当日を含むか含まないか、それ以前か以降か、複数の日付にまたがる場合そうした日付を両方含むのかあるいは片方だけ含むのか、などに応じて厳密に英語を書き表さなければならないので、こういったニュアンスのある日付を英語で表記する際には腐心して正確に表記しなければならない。これは、日付だけでなく、数字を書く場合も同様だ。

さらに、話はちょっと脱線するが、英語で数字を表記する場合には、「数字表記の決まり事」「単位と数字（スペルアウト、半角スペース、アラビア数字などに絡む）」を書く際の細かい規定や決まり事や、「国別に異なる小数点や桁区切りの記号の位置や違い（小数点以下をドットまたはコンマで区切ったり、桁区切り部をドット、コンマ、アポストロフィーや半角スペースなどで分けたり）」など紛らわしい（国際度量衡総会決議による）決まりがあるので要注意だ。

例： 1万 2345.67 (1万2千3百45.67)

日本 ～ 一万二千三百四十五点六七

英米 ～ 12,345.67 (アラビア数字で書く場合は日本もこれと同じ)

仏 ～ 12.345,67

独 ～ 12 345,67 等々…

これにて、翻訳一口メモ第18回目終わり。